

JR東海労なごや

2012年1月25日 No. 888
JR 東海労名古屋地方本部
発行者：山田哲也
編集者：教宣部

日常普段的に起こっていることの報告書作成や、睡眠時間を削ってまでの報告書作成強要をやめろ

膨大な報告書作成

最近、会社による乗務報告書、時系列等報告書、振り返りレポートなどの書面提出が非常に増えています。事象が発生すると膨大な書面の提出が管理者から言われます。例を挙げれば、チケッターの部品が1時間ほど見あたらなかっただけで5時間以上も「書き物」を指示された組合員もいます。

報告書作成で様々な弊害が発生

私たちは事故等の発生に際し業務で知り得た情報は迅速に指令に報告しています。乗務報告書の作成には内容や個人差もありますが30分以上が費やされます。報告書作成のため、休憩もとれずに次の乗務へ向かった。食事がとれなかった。自区へ帰り乗務報告書の書き直しを何度も命じられ睡眠時間が3時間ほどしかなくなってしまったなどの事象が発生しています。

安全を阻害する報告書作成

管理者の自己保身による報告書作成命令

会社は「事故等の再発防止のために正確な事実の把握」のために書面提出を指示すると言っていますが、本末転倒になってはいないでしょうか。休憩、食事、睡眠をとらずに乗務することは事故の芽です。つまり、会社は不安全を指示しているのです。夜中に何度も書き直しを命じる管理者もいます。自分の仕事だけを考えている自己保身です。会社が官僚化することは衰退の始まりです。不必要な文書作成を命ずることによる超勤も莫大な額がかかっていると思います。文書により現場社員の責任を明確にすることのみでは、事故はなくならないと考えます。

私たちは、日常普段的に起こっていることの報告書作成や、睡眠時間を削ってまで報告書を作成することはやめるべきと主張します。